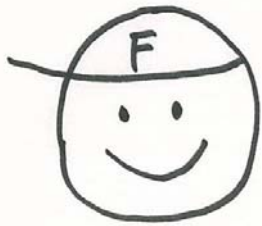
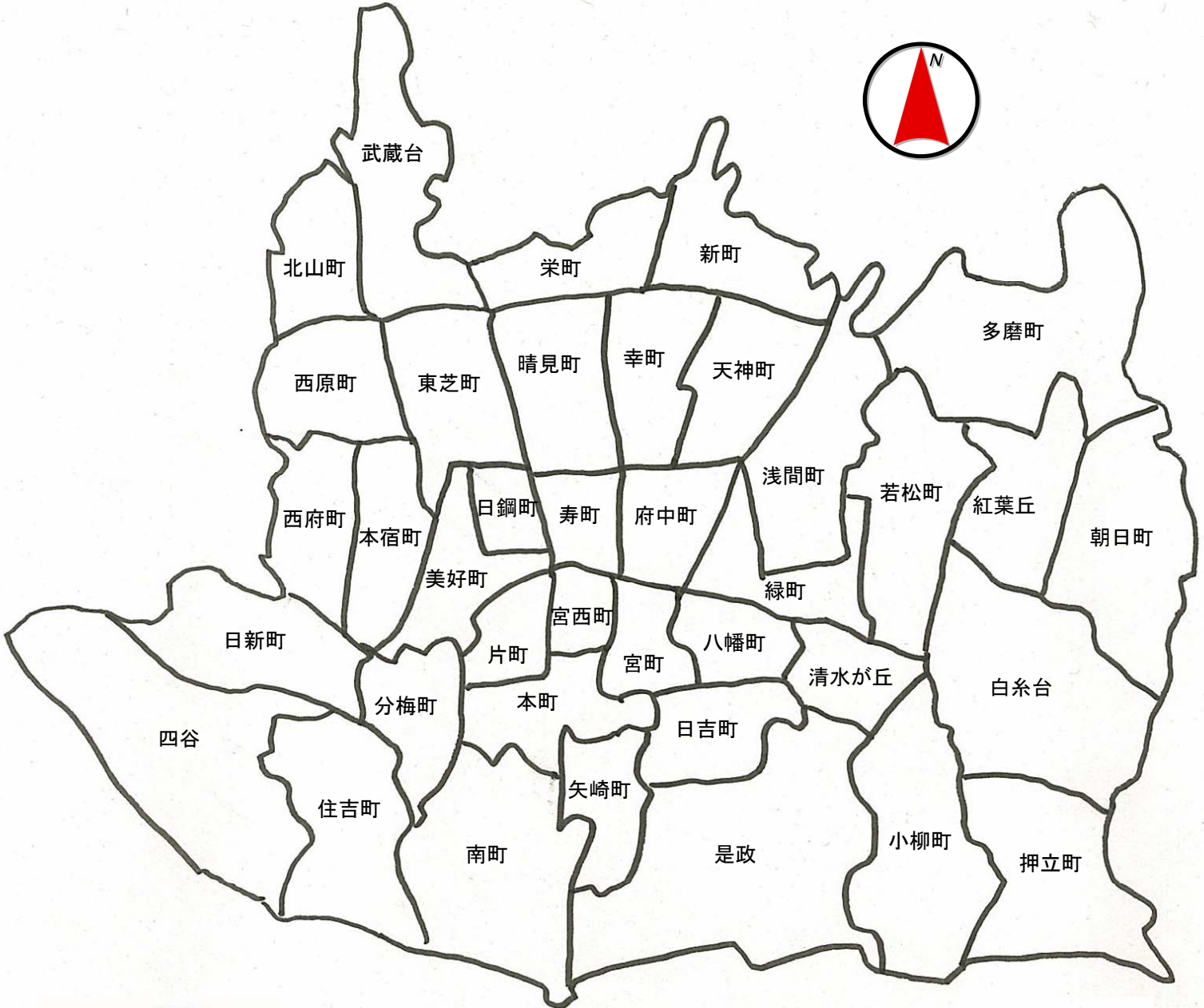


ふちゅう まちしょうかい  
府中の町紹介



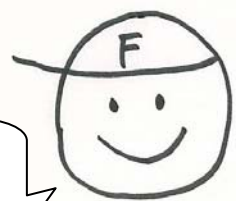
これは<sup>ふちゅうし</sup>府中市の<sup>ちず</sup>地図  
だね！いくつの<sup>まち</sup>町が  
あるのかな？

では、<sup>いっしょ</sup>一緒に<sup>しら</sup>調べて  
みようね。



# もくじ

てんじんちょう 天神町 - 3 ㇰ-ヅ	みよしちょう 美好町 - 8 ㇰ-ヅ	せんげんちょう 浅間町 - 12 ㇰ-ヅ	よつや 四ッ谷 - 17 ㇰ-ヅ
さいわいちょう 幸町 - 3 ㇰ-ヅ	ひよしちょう 日吉町 - 8 ㇰ-ヅ	これまさ 是政 - 12 ㇰ-ヅ	にっしんちょう 日新町 - 17 ㇰ-ヅ
ことぶきちょう 寿町 - 4 ㇰ-ヅ	かたまち 片町 - 9 ㇰ-ヅ	おしたてちょう 押立町 - 13 ㇰ-ヅ	きたやまちょう 北山町 - 17 ㇰ-ヅ
しみずおか 清水が丘 - 4 ㇰ-ヅ	ほんまち 本町 - 9 ㇰ-ヅ	あさひちょう 朝日町 - 13 ㇰ-ヅ	にしはらちょう 西原町 - 18 ㇰ-ヅ
みやにしちょう 宮西町 - 5 ㇰ-ヅ	むさしだい 武蔵台 - 10 ㇰ-ヅ	たまちょう 多磨町 - 14 ㇰ-ヅ	にしふちょう 西府町 - 18 ㇰ-ヅ
しんまち 新町 - 5 ㇰ-ヅ	とうしばちょう 東芝町 - 10 ㇰ-ヅ	もみじがおか 紅葉丘 - 14 ㇰ-ヅ	ほんしゆくちょう 本宿町 - 18 ㇰ-ヅ
みやまち 宮町 - 6 ㇰ-ヅ	ふばいちょう 分梅町 - 10 ㇰ-ヅ	こやなぎちょう 小柳町 - 15 ㇰ-ヅ	ふちゅうちょう 府中町 - 19 ㇰ-ヅ
はるみちょう 晴見町 - 6 ㇰ-ヅ	やざきちょう 矢崎町 - 11 ㇰ-ヅ	わかまつちょう 若松町 - 15 ㇰ-ヅ	みどりちょう 緑町 - 19 ㇰ-ヅ
はちまんちょう 八幡町 - 7 ㇰ-ヅ	みなみちょう 南町 - 11 ㇰ-ヅ	しらいとだい 白糸台 - 16 ㇰ-ヅ	
さかえちょう 栄町 - 7 ㇰ-ヅ	にっこうちょう 日鋼町 - 11 ㇰ-ヅ	すみよしちょう 住吉町 - 16 ㇰ-ヅ	



まち  
町ができた  
しゅんぱん  
順番に  
なっているよ!

## <府中市> . . . 昭和29年4月1日生まれ

たいかがん  
大化元年(645年)の大化の改新で、  
たいか かいしん ぜんこく  
全国に60くらいの国が生ま

れ、  
むさしのくに  
武蔵国ができました。武蔵国の国府(役所)が置かれ、  
お せいじ  
政治・

けいざい ぶんか ちゅうしん  
経済・文化の中心という意味で「府中」とよばれるようになったと

いわれています。かまくらじだい お  
鎌倉時代の終わりには合戦(戦い)の舞台になり

え どじだい きゅうこうしゅうかいどう そ しゆくば つく  
江戸時代は旧甲州街道に沿って宿場が作られ、にぎわいました。

ふちゅうし ふちゅうまち たまむら にしふむら  
府中市は府中町、多磨村、西府村がひとつになって誕生しました。

いま なみき おおくにたまじんじゃ しぜん れきし のこ  
今もけやき並木や大國魂神社などの自然と歴史が残るふるさとのま

ちとして、はってん つづ  
発展を続けています。

ひろしまけん  
広島県にも「府中市」という  
と市がありますよ。

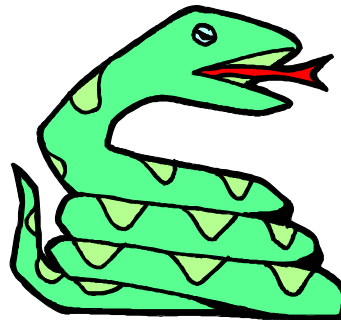


<天神町>・・・昭和34年5月1日生まれ

幸町とともに、いちばん初めに現在の町名に改正されました。

むかし、このあたりは窪んだ土地で、蛇がたくさんいたようです。

大蛇が住んでいたという伝説もあります。



<幸町>・・・昭和34年5月1日生まれ

天神町の西側にある町です。馬場大門けやき並木の北にあるので「

馬場先」とよばれていた土地があります。三丁目には、東京農工大学

農学部があります。



とうきょうのうこうだいがく  
東京農工大学

< 寿町 > . . . 昭和34年10月1日生まれ

むかしからの地区の名前の「馬場」とは、けやき並木の左右にあった競馬式（馬を走らせる儀式）を行った場所のことです。この並木

は徳川家康が寄付したものだと言え

られています。「寿」という町名は

縁起の良いところからつけられました

た。寿中央公園のひょうたん池に

は大賀ハスがあります。



馬場大門けやき並木

< 清水が丘 > . . . 昭和34年10月1日生まれ

この地域は府中産線（ハケ）というがけがあり、水量の豊富な滝が

流れていました。瀧神社の湧き水で例大祭前

の神職や競馬式に使われる馬を清めたとい

われています。三丁目の東郷寺には映画『

羅生門』に登場する門のモデルになった

立派な山門があります。春にはしだれ桜が

美しいことでも有名です。



東郷寺（山門）

＜<sup>みやにしちょう</sup>宮西町＞・・・<sup>しょうわ</sup>昭和35年5月1日生まれ

<sup>えどじだい</sup>江戸時代、<sup>ふちゅうし</sup>府中市は街道の<sup>かいてう</sup>ところどころに<sup>たびびと</sup>旅人が泊まったり、<sup>うま</sup>馬やかごを<sup>の</sup>乗り<sup>つ</sup>継いだりする<sup>しゆくば</sup>宿場としてにぎわい、<sup>ふちゅうしゆく</sup>府中宿といわれました。むかし、<sup>みやにしちょう</sup>宮西町は<sup>ふちゅうしゆく</sup>府中宿のひとつで<sup>ばんばしゆく</sup>番場宿といいました。町の<sup>ちゅうしん</sup>中心を<sup>とうざい</sup>東西に<sup>きゅうこうしゅうかいどう</sup>旧甲州街道、<sup>なんぼく</sup>南北に<sup>ふちゅうかいどう</sup>府中街道（<sup>きゅうかまくらいどう</sup>旧鎌倉街道）が走り、その<sup>こうさてん</sup>交差点には<sup>こうさつば</sup>高札場（<sup>やくしよ</sup>むかしの役所が<sup>めいれい</sup>命令や<sup>し</sup>お知らせなどを<sup>ふだ</sup>札に<sup>か</sup>書いて<sup>た</sup>立てた<sup>ばしよ</sup>場所）が<sup>のこ</sup>残っています。



<sup>こうさつば</sup>高札場

＜<sup>しんまち</sup>新町＞・・・<sup>しょうわ</sup>昭和35年5月1日生まれ

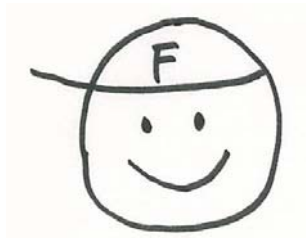
<sup>ふちゅうし</sup>府中市の<sup>ちゅうしん</sup>中心からまっすぐ<sup>きた</sup>北に<sup>い</sup>行ったところにあり、<sup>こくぶんじし</sup>国分寺市と<sup>こがねいし</sup>小金井市に<sup>せつ</sup>接しています。町の<sup>まち</sup>西側には<sup>にしがわ</sup>関東医療<sup>かんとういりょうしょうねんいん</sup>少年院があります。

<宮町> . . . 昭和35年10月1日生まれ

宮町は、むかしから府中の中心になっていたところです。三丁目に  
ある大國魂神社は、長い歴史のある神社で「六所宮」・「六所明神」  
ともよばれ江戸時代に政治を行っていた徳川幕府から、神社が責任  
をもって管理する土地とされました。5月5日の「くらやみ祭」は  
たくさんの人でにぎわいます。



おおくにたまじんじゃ  
大國魂神社



おおくにたまじんじゃ  
大國魂神社には「七不思議」  
があるんだよ！  
「こども府中はかせ1」を  
よ  
読んでみてね。

<晴見町> . . . 昭和35年10月1日生まれ

明治の初めには家が少ない地域でしたが、晴見町団地（現在の府中グ  
リーンハイツ）が建設されて人口が多い町になりました。昭和10  
年に府中刑務所ができました。

はちまんちょう  
<八幡町>・・・しょうわ  
昭和36年3月1日生まれ

むかし、このあたりにははちまんしゆく というなまえ そんらく  
名前の村落がありました。

とうきょうけいばじょう きたがわ むさしこくふはちまんぐう  
東京競馬場の北側には武蔵国府八幡宮があり、このことからまち な  
町の名

がつきました。いま はやし じんじゃ と かこ  
今もうっそうとした林が神社を取り囲んで、おごそ

かなふんいき だ え とうじだい とお おおくにたまじんじゃ  
かな雰囲気を出しています。ここは江戸時代を通して大國魂神社が

かんり とち  
管理する土地でした。



むさしこくふはちまんぐう  
武蔵国府八幡宮

さかえちよう  
<栄町>・・・しょうわ  
昭和36年3月1日生まれ

このあたりは、え とうじだい とくがわいえやす ひてだ しょうぐん たか が  
江戸時代に徳川家康や秀忠らの将軍が鷹狩りをした



ばしょ ちようめ むさしこくぶんじ  
場所だといわれています。三丁目には、武蔵国分寺

さんどうぐちあと むさしこくぶん に じ さんどう  
参道口跡があります。武蔵国分尼寺からこの参道

ぐち とお こくふ つづ みち あと み  
口を通過して国府まで続く道の跡が見つかったこと

ちゅうもく しせき  
から注目されている史跡です。

<美好町>・・・昭和36年3月1日生まれ

奈良時代から平安時代にかけての土器が見つかった高倉遺跡があります。「高倉」という名前は、武蔵国の役所の大事な倉庫があったことを意味するそうです。

<日吉町>・・・昭和36年7月1日生まれ

この町は、立川段丘（階段状の地形）下の川によって運ばれてきた土砂が積み重なってできた低い土地にあります。一丁目の東京競馬場は昭和8年に開設されました。日吉町の由来は、競馬場の北側に面した丘の上にある日吉（ひえ・ひよし）神社がもとになっているようです。この競馬場を建てる時に縄文時代中期の完形土器2個が掘り出され、現在は、郷土の森博物館に保存されています。





＜<sup>かたまち</sup>片町＞・・・<sup>しょうわ</sup>昭和36年7月1日生まれ

<sup>かたまち</sup>片町は旧<sup>きゅうこうしゅうかいどう</sup>甲州街道の<sup>みちすじ</sup>道筋の<sup>きゅうばんばしゆく</sup>旧番場宿<sup>なか</sup>の中<sup>かたまち</sup>にありました。「片町」

という<sup>なまえ</sup>名前は、<sup>かいどう</sup>街道を<sup>はさんで</sup>はさんで<sup>みなみかわ</sup>南側<sup>そとうしゅう</sup>には曹洞宗<sup>なだか</sup>の名<sup>てら</sup>高い寺<sup>の</sup>の

<sup>こうあんじ</sup>高安寺<sup>きたがわ</sup>があり、<sup>まちな</sup>北側<sup>のみ</sup>にのみ<sup>まちな</sup>町並み<sup>があつた</sup>があった<sup>ところ</sup>ところ<sup>から</sup>から<sup>きて</sup>きている<sup>よう</sup>よう

です。また、この<sup>ちいき</sup>地域の<sup>かたまちいせき</sup>片町遺跡<sup>みよしちよう</sup>（美好町も<sup>ふくむ</sup>ふくむ）<sup>ならじだい</sup>など奈良時代

の<sup>いせき</sup>遺跡<sup>からは</sup>からは<sup>はじき</sup>土師器<sup>すえき</sup>・須恵器<sup>などの</sup>などの<sup>どき</sup>土器<sup>が</sup>が<sup>たくさん</sup>たくさん<sup>で</sup>出て<sup>います</sup>います。



<sup>こうあんじ</sup>高安寺 <sup>さんもん</sup>（山門）

＜<sup>ほんまち</sup>本町＞・・・<sup>しょうわ</sup>昭和36年7月1日生まれ

<sup>ほんまち</sup>本町は、<sup>ふちゅうしゆく</sup>府中宿<sup>なか</sup>の中<sup>ふる</sup>でもいちばん<sup>こくふ</sup>古く、<sup>さか</sup>国府<sup>ふちゅう</sup>が栄<sup>え</sup>えた<sup>ところ</sup>ところ<sup>から</sup>から<sup>府中</sup>府中

の<sup>ちゅうしん</sup>中心<sup>はってん</sup>として<sup>ふちゅうほんまちえき</sup>発展<sup>ひがしがわ</sup>してきました。府中本町駅<sup>え</sup>の東側<sup>えどじだい</sup>には江戸時代、

<sup>とくがわごてん</sup>徳川御殿<sup>とくがわしょうぐん</sup>（徳川将軍<sup>ごてん</sup>の御殿）<sup>しょうぐん</sup>があり、<sup>たまがわ</sup>将軍<sup>あゆ</sup>が多摩川<sup>で</sup>で<sup>鮎</sup>鮎

<sup>りよう</sup>漁<sup>たかが</sup>や鷹狩<sup>た</sup>りを<sup>よ</sup>するとき<sup>に</sup>に<sup>たち</sup>立ち<sup>寄り</sup>寄った<sup>とい</sup>とい<sup>われて</sup>われています。

また、<sup>しょうぐん</sup>将軍<sup>た</sup>が<sup>うり</sup>食べる<sup>た</sup>ための<sup>うり</sup>瓜<sup>の</sup>の<sup>たんぼ</sup>田んぼ<sup>も</sup>も<sup>あり</sup>あり<sup>ました</sup>ました。



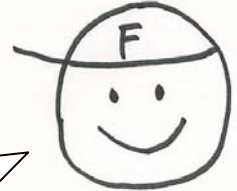
<武蔵台>・・・昭和36年11月1日生まれ

府中市で唯一、武蔵野台地の地域がある町です。武蔵台遺跡は、約3

万年前の旧石器時代の遺跡です。三丁目には市内で最も

高い標高82メートルの場所があります。

なんと、浅間山より  
高いんだよ！

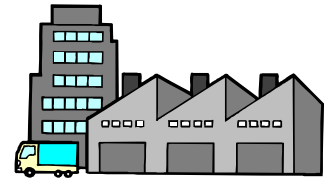


<東芝町>・・・昭和36年11月1日生まれ

東芝町は、そのほとんどが東芝府中事業所の敷地です。東京芝浦

電気府中工場として昭和15年に開設され、日本製鋼所とともに

府中の工業化をはやくから進めてきました。



<分梅町>・・・昭和37年5月1日生まれ

分梅町は、『太平記』という有名な物語に出てくる分倍河原の合戦(

戦い)の舞台になったところです。江戸時代より前まで「分梅」は

「分倍」とよばれていましたが、江戸時代には分梅と書かれるよう

になりました。そのころの分梅は、梅の木が多くあったのかもしれ

ません。一丁目にある光明院も、「梅花山」という別の名前があり

ます。

< 矢崎町 > . . . 昭和37年5月1日生まれ

矢崎の名前は「谷の崎」の意味で、むかしは旧日本町にふくまれていました。本町に徳川御殿が建設され、そこから金塚（是政六丁目あたり）までの「お茶屋街道」ができたことで、現在の町並みが作られました。二丁目には三千人塚があります。五丁目の郷土の森公園・修景池では夏にたくさんのハスの花を楽しむことができます。



< 南町 > . . . 昭和37年5月1日生まれ

その名のおり府中市の南側にある町です。むかし、このあたりは多摩川が流れていました。三丁目の学校給食センターでは、市内の小中学校で食べる給食を作っています。六丁目には郷土の森博物館があります。



< 日鋼町 > . . . 昭和37年5月1日生まれ

日鋼町は、もともこの場所に日本製鋼所という鉄鋼業の会社があったのでこの名前がつけられました。今は府中インテリジェントパークや日鋼団地などにその姿をかえました。

せんげんちょう  
<浅間町> . . . しょうわ  
昭和37年11月1日生まれ

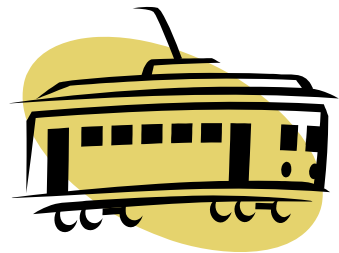
せんげんちょう ゆらい わかまつちょう せんげんやま せんげんじんじゃ  
浅間町の由来は、となりの若松町にある浅間山の浅間神社からき  
ています。こうくうじえいたいふちゅうきち ふちゅうしびじゅつかん しょうがいがくしゅう  
航空自衛隊府中基地や府中市美術館、生涯学習センタ  
ーなどはむかしのべいぐんきち しきち りょう た  
ーなどはむかしの米軍基地の敷地を利用して建てられました。



せんげんじんじゃ  
浅間神社

これまさ  
<是政> . . . しょうわ  
昭和37年11月1日生まれ

い だ せつつかみこれまさ ひと のはら き ひら  
井田摂津守是政という人が、野原だったところを切り開いたので「  
これまさ なまえ とうきょうけいばじょう なか はか  
是政」と名前がつきました。東京競馬場の中にお墓があります。む  
かし、たまがわ ほ じゃり うんぱん つく せいぶ たまがわ  
多摩川から掘った砂利を運搬するために作られた西武多摩川  
せん ちいき じゅうよう こうつうきかん たまがわきょうていじょう  
線は、この地域の重要な交通機関になっています。多摩川競艇場  
は、じゃり ほ あな せいび た  
は、砂利を掘ってできた穴を整備して建てられ  
たものです。



おしたてちょう  
＜押立町＞・・・しょうわ  
昭和38年5月1日生まれ

けいちょうがん  
慶長元年（1596年）の大洪水で村が分かれたために多摩川の向  
こう側、現在の稲城市にも「押立」という地名があります。分かれ

るという意味の「押し切り」が由来である

という説と、かまくらじだいほん あすまかがみ  
鎌倉時代の本『吾妻鏡』

に出てくる人の名前からという説があ

ります。えどじだいには、この村の川崎平

右衛門定孝が世話役となり、あれた田を

よくしひとびとの暮らしに役立ったこと

で代官になりました。お墓が四丁目の

りゅうこうじ  
龍光寺にあります。



かわさきへい えもん おきなぞう  
川崎平右衛門翁像  
きょうど もりはくぶつかん  
(郷土の森博物館)

あさひちょう  
＜朝日町＞・・・しょうわ  
昭和38年11月1日生まれ

ふちゅうし  
府中市のいちばん東側の町です。しょうわ  
昭和39年に第18回オリンピッ

クがとうきょうかいさい  
東京で開催されたとき、よよぎきょうぎじょう  
代々木に競技場などをつく

にあったアメリカ軍の施設が三丁目のあたりにいてん  
移転してきました。

げんざい  
現在は、とうきょうがいこくごだいがく けいさつだいがっこう  
東京外国語大学や警察大学校などがあります。

<多磨町>・・・昭和39年2月1日生まれ

多磨町には、大正12年に開設された多磨霊園があります。日本初

の森林公園墓地で、園内には北原白秋、与謝野鉄幹・晶子夫妻、菊池

寛、江戸川乱歩、東郷平八郎、長谷川町子などの有名人が眠ってい

ます。多くの木々に囲まれていて、近頃は桜の名所としても知られ

ています。また、都立武蔵野公園

は野川や原っぱや林があって、

豊かな武蔵野の自然が残ってい

ます。



多磨霊園の桜

<紅葉丘>・・・昭和39年2月1日生まれ

紅葉丘は、となりの多磨町に多磨霊園が開設されたため、比較的 新

しい寺院や石材店などが数多くあります。三丁目にある西武多摩川

線「多磨」駅は、むかし多磨霊園に一番近い駅だったので「多磨墓地

前駅」という名前でした。その後、駅の周りのまちづくりが進み、他

の建物も増えたので今の名前に変わりました。

< <sup>こやなぎちょう</sup>小柳町 > . . . <sup>しょうわ</sup>昭和39年5月1日生まれ

<sup>えどじだい</sup>江戸時代には <sup>おだぶんむら</sup>小田分村があったところで、『<sup>しんぺんむさしふときこう</sup>新編武蔵風土記稿』とい

<sup>ほん</sup>う本には <sup>たはた</sup>田畑が <sup>とうぶん</sup>等分に <sup>みんか</sup>民家 <sup>けん</sup>十五軒が <sup>か</sup>あったと書かれています。

<sup>きゅうちめい</sup>旧地名の「<sup>おおあざおだぶん</sup>大字小田分」と「<sup>つねひさあざやなぎはら</sup>常久字柳原」の文字をとって <sup>こやなぎちょう</sup>小柳町と <sup>な</sup>名づけられました。

< <sup>わかまつちょう</sup>若松町 > . . . <sup>しょうわ</sup>昭和39年9月1日生まれ

<sup>ちょうめ</sup>五丁目の <sup>とりつせんげんやまこうえん</sup>都立浅間山公園は、<sup>ひょうこう</sup>標高80メートルのところにあります。

このあたりの <sup>ちしつ</sup>地質は <sup>たまきゅうりょう</sup>多摩丘陵 と <sup>おな</sup>同じ <sup>しゅるい</sup>種類のもので、<sup>ふる</sup>古い <sup>かせん</sup>河川に <sup>けず</sup>削

られて <sup>おか</sup>丘になりました。ふもとには <sup>たいへいようせんそうちゅう</sup>太平洋戦争中 <sup>ぼうくうごう</sup>に防空壕が <sup>ほ</sup>掘られ、

そこから <sup>かせき</sup>カキがらの化石などが <sup>で</sup>出ました。また、<sup>じょうもんじだい</sup>ここには縄文時代

の <sup>いせき</sup>遺跡もあり、<sup>せつき</sup>石器などが <sup>さいしゅう</sup>採集されています。<sup>しょうへい</sup>正平7年（135

2年）に <sup>あしかがたかうじ</sup>足利尊氏と <sup>にったよしおき</sup>新田義興・<sup>よしむねきょうだい</sup>義宗兄弟たちが <sup>たたか</sup>戦った <sup>ひとみがはら</sup>人見原

<sup>こせんじょうあと</sup>古戦場跡があります。



<sup>せんげんやまこうえん</sup>浅間山公園のムサシノキスゲ

＜<sup>しらいとだい</sup>白糸台＞・・・<sup>しょうわ</sup>昭和39年9月1日生まれ

むかし、このあたりでは「まゆ」をつむいでいました。<sup>いと せたがや</sup>糸は世田谷の  
<sup>きぬた</sup>砧というところでさらした<sup>あと</sup>後、ここに<sup>もと</sup>戻して<sup>そ</sup>染め、<sup>はちおうじ おりや</sup>八王子の織屋が  
<sup>お</sup>織った<sup>もの</sup>物を<sup>こくふ</sup>国府に<sup>おさ</sup>納めたといわれています。<sup>ちめい</sup>地名はそれにちなんだ  
ものです。また、<sup>ちょうめ ほんがんじ</sup>五丁目の本願寺をはじめ<sup>ふる</sup>古い<sup>れきし</sup>歴史を<sup>も</sup>持つ<sup>じしゃ</sup>寺社があ  
<sup>そめやふどう</sup>り、<sup>あみだこんどうぶつ</sup>染屋不動の阿弥陀金銅仏は<sup>くに</sup>国の<sup>じゅうようぶんかざい</sup>重要文化財に<sup>してい</sup>指定されています。

＜<sup>すみよしちょう</sup>住吉町＞・・・<sup>しょうわ</sup>昭和40年5月1日生まれ

むかしの<sup>たまがわ</sup>多摩川は、<sup>いま</sup>今よりはるか<sup>きたがわ</sup>北側の<sup>なが</sup>あたりを流れていました。  
また、<sup>げんざい</sup>現在の<sup>たまがわりゅういき</sup>多摩川流域は<sup>あさかわ</sup>浅川だったので、この二つの川の<sup>かわ</sup>間に  
<sup>おお</sup>あるところから「<sup>なかがわら</sup>中河原」という名が<sup>な</sup>ついたといわれています。<sup>おお</sup>大き  
<sup>かわ</sup>な川の<sup>ちか</sup>近くには、<sup>みず</sup>水の<sup>かみさま</sup>神様として<sup>すみよしじんじゃ</sup>住吉神社がまつられるということ  
でこの<sup>な</sup>名をとって<sup>すみよしちょう</sup>住吉町に<sup>けつてい</sup>決定されました。



<sup>たまがわ</sup>  
多摩川



<四谷>・・・昭和40年5月1日生まれ

江戸時代のころは四ツ谷村とよばれていて、「四ツ屋」と書かれた文書もたくさん残っています。「四ツ屋」とは四軒の家が最初に移住してきたため、それが四谷村の始まりだといわれています。



<日新町>・・・昭和40年11月1日生まれ

江戸時代には本宿村と四ツ谷村にふくまれていて、水田や梨畑などが多くありました。昭和39年に日本電気株式会社（NEC）府中事業場が設置されました。一丁目のハケ下（土地の高さが低くなっているところ）からは豊富な湧き水が流れています。

<北山町>・・・昭和40年11月1日生まれ

四丁目には、「白明坂」（別名「見返り坂」）があります。元弘3年（1333年）に新田義貞と北条泰家が戦ったとき、義貞軍が分倍河原に攻め込もうとしたところ、ここで夜が明けてしまったため名づけられたといわれています。

にしはらちょう  
<西原町>・・・しょうわ  
昭和41年5月1日生まれ

いぜん  
以前このあたりにはとうざい つう みち  
東西に通じる道がありませんでしたが、ふじみ



とお  
通りができたことで、このまち もう  
町を設けることにな

りました。ちようめ  
四丁目には、だいどうきた  
「大道北」というむかし

ちめい  
の地名がつけられたこうえん  
公園があります。

にしふちよう  
<西府町>・・・しょうわ  
昭和41年5月1日生まれ

むかしはほんしゆく よつや なかがわら  
本宿、四ツ谷、中河原の3つの村がまとまってにしふむら  
西府村とよ

ばれていました。ふちゆう にし  
府中の西にあるので

このなまえ  
名前になったといわれています。

くまのじんじゃ  
熊野神社ではこくないさいだい  
国内最大のじょうえんかほうぶん  
上円下方墳と

こふん はっけん  
古墳が発見されました。



むさしふちゆうくまのじんじゃこふん  
武蔵府中熊野神社古墳

ほんしゆくちょう  
<本宿町>・・・しょうわ  
昭和41年5月1日生まれ

ほんしゆく  
「本宿」はごほうじようし た しゆくば  
後北条氏が建てた宿場であるといわれています。この

あたりはたちかわだんきゆう した  
立川段丘の下にあり、え どじだい はじ  
江戸時代の初めにはほんしゆくむら  
本宿村という

おお  
大きなそんらく  
村落がありました。のち  
後に旧 甲州 街道がげんざい  
現在のち うつ  
地へ移ったと

きにそのな  
名だけがのこ  
残ったようです。

＜府中町＞・・・昭和47年5月3日生まれ

府中市の中央にある地域で、京王線府中駅北側から、けやき並木通

りと小金井街道の間の場所です。

中央図書館は、ルミエール府中の

中にあります。三丁目の桶久保

公園は明治時代の地名がつけられ

ています。



中央図書館（ルミエール府中）

＜緑町＞・・・昭和47年5月3日生まれ

府中市の中で府中町とともに最後に誕生しました。「万蔵庵」、「

三本木」、「八幡宿」などむかしながらの地名が、現在は公園の名前

として残っています。甲州街道沿いには、東京オリンピック競歩

折返記念碑があります。



オリンピック競歩折返記念碑

# もっと知りたくなったら読む本のリスト

書名 (本の名前)	著者 (本を書いた人)	出版年	本の背ラベル
郷土府中	府中市立中学校社会科副読本編集委員会 / 編集		F 21 / キ
府中の歴史と私たち	馬場治子	1987年	F 21 / バ
府中の風土誌 第7版	府中市	1981年	F 21 / フ
いしぶみ草子	文化スポーツ部文化振興課	2010年	F 29 / イ
わたしたちの府中	府中市立小学校社会科副読本編集委員会 / 編集		F 29 / ワ
ふちゅうガイド	府中市政策総務部広報課 / 編集	2011年	F 29 / フ
武蔵府中叢書 5 府中市の町名地番	府中市企画調整部 / 編集	1977年	F 213 / 10 / ム
ふるさと府中文化財めぐり	府中市郷土の森博物館 / 編集	2007年	F 291.3 / 10 / フ
グラフ府中 第7号	府中市企画調整部広報課 / 編集	1974年	F 318.5 / 10 / グ
グラフ府中 第8号	府中市企画調整部広報課 / 編集	1974年	F 318.5 / 10 / グ
グラフ府中 第9号	府中市企画調整部広報課 / 編集	1975年	F 318.5 / 10 / グ

さがしている本が見つからないときは、図書館の人にきいてみましょう。



「府中の町紹介」こども府中はかせ No.2 2012年12月発行

府中市立図書館 編集・発行 協力: 府中観光協会・府中市郷土の森博物館

<http://library.city.fuchu.tokyo.jp/>